



写真提供：佐伯泰英事務所
京都四條南座の開場式にて

幻の原稿と夢の一日

佐伯通信

2019年2月(平成31)
第46号
発行
佐伯泰英事務所
担当/文藝春秋
禁・無断転載

二〇一九年正月で時代小説に転じてちょうど二十年です。刊行の歳月です。時代小説に最初に手をつけたのは二、三年前の一九九七年から九八年頃でしょうか。手書き原稿執筆からワープロ書きに移行した時期にあたります。ですが、それ以前の、ま

だ手書き原稿時代に新選組ものに興味を感じて新選組の故郷ともいえる日野辺りを追憶した記憶があります。曖昧ですが、日野に実在した新選組の支援者の郷土を見つけ、その人物の視点で自分流の新選組が書けないか模索して、原稿用紙に何百枚か書いたのは記憶があります。ですが、その当時、国分寺市から府中市へ移り、さらに府中市内で別の場所に引越し、さらには世田谷区の団地へと転々と移転していたためにどこへ消えたか、今となっては「幻の原稿」になってしまいました。

佐伯泰英／近刊のお知らせ

5月
29日

4月
10日

3月
12日

《光文社文庫》
吉原裏同心抄
『夢を釣る』

「佐伯通信」第47号が入ります。(初版の初回出荷分のみ読み込み)

《文春文庫》
居眠り磐音
『武士の賦』

《新潮文庫》
新・古着屋総兵衛
『日の昇る国へ』完

18

《文春文庫》居眠り磐音〔決定版〕 順次刊行！

5月10日
⑦『狐火ノ杜』

⑥『雨降ノ山』

4月10日
⑤『龍天ノ門』

④『雪華ノ里』

3月8日
③『花芒ノ海』

②『寒雷ノ坂』

※発売日は予定です

癒されます。

文藝春秋文庫
「酔いどれ小籐次」シリーズ担当

瀬尾 巧



読者のみなさま、『鼠草紙』をお買い上げいただきありがとうございます。江戸を離れ、小籐次とおりょう、駿太郎の一家は、駿太郎の亡父須藤平八郎の故地・丹波篠山藩を訪れます。駿太郎は本懐であった実母の墓参を遂げますが、一家を付け狙う怪しい影が……。山々が色づく美しき丹波の秋を思い浮かべつつ、お楽しみください。

さて、タイトルの『鼠草紙』とは？と思われた読者の方も多はず。詳しくは本編でおりょうさんにお話しいただきますが、「浦島太郎」や「一寸法師」と同様、室町時代後期から江戸時代にかけて作られた「お伽草子」のひとつで、絵巻物が現存しています。京都に住むネズミの「権頭」が、子孫は人間に生まれ変わって欲しいと、人間の「姫君」と結婚するものの、正体がばれてしまい……という悲恋なのですが、絵巻を見るとユルくて可愛くて、癒されるネズミがいっぱい！ 嫁入り行列のネズミにはみな名前があり、「この荷物、重いなあ。上様の恋の重荷か」などの台詞も。まるで絵本の『ぐりとぐら』のようです。ご興味のある方は、本編巻末の参考文献をご覧ください。

さて、今月から『居眠り磐音』が装いも新たに〔決定版〕として帰ってきます。江戸深川の浪人・坂崎磐音の活躍に乞うご期待！



悲恋の主人公「権頭」さん(画像提供：篠山市教育委員会)

近刊・作品情報はこちでもチェックできます。
<http://www.saeke-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2019年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと発行いたします。
(株)文藝春秋、(株)光文社、(株)新潮社

さて前回の「佐伯通信」で報告した京都四條南座の開場式に行って参りました。一見南座は昔の外観と変わらないようですが、内部構造はしっかりと耐震補強がなされ、一階の客席を催しによつてはフラット化する床構造に改裝して「新たな演出」が可能になっておりました。

娘と私、指定された席は下手側のさじき席と花道の間、私の横手にはなんと舞妓さん三十人が居流れ、反対側のさじき席に視線を移すとこちらも三十人がお座り、私は「旦那」気分を

一瞬満喫致しました。

「居眠り磐音」決定版 刊行記念プレゼントキャンペーン 2019

出版社からのお知らせ●文春文庫

A賞

5月17日全国公開
映画「居眠り磐音」
ペア鑑賞券 (100組200名様)

B賞

特製「居眠り磐音」
ブックマーカー (300名様)

1月刊『奈緒と磐音』、2月刊『陽炎ノ辻』、3月刊『寒雷ノ坂』『花芒ノ海』の帯についている応募券2枚をはがきに貼り、お送りください。
※詳しくは、各巻の帯をご覧ください。

応募締め切り
2019年3月31日
当日消印有効